

## 裁判員



### 大沢祐介（中村俊介）

サラリーマン（28歳）。誠実な仕事ぶりが評判。正義感は強い方で、裁判員制度にも関心を持っていた。ただ、いざ裁判員候補者になると上司や部下に迷惑を掛けるのではないかと懸念。しかし、上司は裁判員として参加することを勧め快く送り出す。評議では、当初は緊張していたものの、次第に持ち味を発揮し、積極的に発言していく。



### 岩本辰夫（小林稔侍）

工具類を作る町工場経営者（52歳）。堅実な経営を好む。従業員5名を抱えており、信頼も厚い。初日の評議では、全員が裁判について前向きに考える雰囲気を作り出す。曲がったことが嫌いで、頑固な面もあり、正しいと思ったことはとことん議論することを好むが、間違っていると思った場合には素直に認める懐の深さもある。



### 松井絹代（藤田弓子）

主婦（62歳）。子供2人は、すでに独立しており、今は教師を定年退職した夫と2人暮らし。熱心に証言をメモするなど、性格は真面目。ただ、当初は、法律の知識がなくても裁判ができるのか不安を抱いていた。評議では、次第に人生経験も踏まえたポイントを突いた発言をするようになる。



### 小池美生（中原果南）

保育士（25歳）。明るく優しい性格の持ち主。好奇心も強い方で、裁判員に選ばれてもいいと考えていたが、実際に裁判に参加してみても難しさに気付かされた面も。しかし、裁判員として参加することについて前向きに捉え、評議では、年の近い婚約者の心理に迫る意見を述べる。



### 千葉俊之（酒井敏也）

勤務していたレストランが倒産したため現在休職中（35歳）。離婚歴あり。人前で自分の意見を言うことが苦手で、自分の殻に閉じこもりがちなタイプ。評議でも口数が少なく、裁判長が意見を求める場面も。自分の意見をはっきり持つまで時間がかかるが、熟慮の上、説得力ある意見を述べる。



### 西出光江（宍戸美和公）

パート主婦（43歳）。夫と子供と3人暮らし。裁判員候補者に決まり、服装にも気を遣った様子がある。松井裁判員同様、裁判員になることに強い不安を抱いていたが、岩本裁判員の言葉に動かされ、積極的に頑張ろうと考え直す。評議では、鋭い観察眼を発揮した意見を述べる。

## 裁判官



### 裁判長：藤原英明（榎木孝明）

東京地方裁判所刑事第1部に所属する裁判長（50歳）。キャリア20年を超えるベテラン判事。これまで、各地の裁判所で民事事件や刑事事件をバランスよく経験してきた。裁判員制度がスタートするまでの間、裁判員に分かりやすく迅速な裁判を実現するために積極的に尽力。人間性も含めて、多くの若手裁判官が目標としている。



### 右陪席裁判官：山本正志（宮下直紀）

東京地方裁判所刑事第1部に所属する裁判官（38歳）。キャリア10年を超える中堅判事。右陪席裁判官（裁判長から見て右側にいる裁判官）を務めるほか、裁判官1人で裁判を行う事件（単独事件）も多くこなしている。評議では、検討すべきポイントを指摘して議論を整理する発言も。



### 左陪席裁判官：田村あかり（越智静香）

東京地方裁判所刑事第1部に所属する裁判官（27歳）。裁判官になって2年目の新人判事補。裁判員裁判を中心に担当している。裁判官を志望するに当たっては、裁判員と一緒に裁判することを希望していた。評議では、緊張しがちな裁判員に配慮する心遣いがうかがえる。

## 事件関係者



### 被告人：中原敦志（金剛地武志）

今回の事件の被告人。サラリーマン（29歳）。誠実実直な性格で、どちらかというとなりとも引込み思案。被害者の朝倉とは、中学・高校の同級生で親友。勤め先で川辺真由美と知り合い、婚約するが、親友の朝倉が川辺と関係を持ったことを知り、朝倉にナイフでけがをさせ、起訴される。



### 被告人の婚約者：川辺真由美（大河内奈々子）

被告人・中原の婚約者（28歳）。経理担当の事務員だったが、婚約を機に会社をやめ、今は被告人・中原と同棲中。誠実な被告人・中原の性格に魅せられ婚約するが、被害者・朝倉の積極的なアタックに根負けし、ついに一度だけ浮気をしてしまう。事件の一部始終を見ていたはずであるが、果たしてどのような供述をするのか。



### 被害者：朝倉慎二（伊藤高史）

被告人・中原の親友。スポーツ万能のエリートサラリーマン（29歳）。被告人・中原が川辺と交際する前、電話で相談された時には、なかなか告白できない被告人を応援した。しかし、実際の川辺を見て一目惚れ。被告人・中原の家で川辺といるところを見られた際、関係を持ったことを被告人に告げる。